

1	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	14101001	聴覚の文法：言語と非言語とを包括する体制化の研究	中島 祥好（九州大学・大学院芸術工学研究院・教授）	A
<p>（意見等）</p> <p>言語、非言語を包括する体制化の文法を探るために、「空隙転移錯覚と分離音現象の仕組み」「隣接する時間感覚の及ぼし合う影響」「音声器官の制御と音声知覚の相互関係」「音節構造と頭語構造」などについて精力的に研究がなされ、成果は国際的な学術誌等において積極的に発表している。投稿中の論文も多いが採択されることが期待されることから、これまでの研究活動は評価できる。研究計画全体としての進捗状況は概ね妥当であり、今後の研究がさらに発展することが期待される。ここ2年間の研究は主として音声についての研究であり、話し言葉についてはこれからの研究となろうが、今後の研究でこれらが統合的に研究されるものと思われる。現状では個々の研究がそれぞれ平行してなされており、今後は、全体の目的に合わせた研究としてさらに発展することが期待される。</p>				
2	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	14101003	先史アンデス社会における文明の形成プロセスの解明	加藤 泰建（埼玉大学・教養学部・教授）	A
<p>（意見等）</p> <p>このクントゥル・ワシ神殿遺跡については人類文明史を考える上で、重要な遺跡として国際的にも注目され、その成果については期待されている。すでに発掘はほぼ終了し、金冠等の金製品の出土物、大量の人骨等の主たる遺物は公表されている。今回のプロジェクトは1)それら全容のデータベース化と2)周辺および関連すると思われる遺跡の発掘によるクントゥル・ワシ神殿遺跡の位置づけの確定にあると思われる。それらを踏まえて3)アンデス社会の特異とも思われる神殿を中心とする文明の形成プロセスの解明にあたるものと考えられる。</p> <p>1)については埼玉大学内に機器を整備し、年次をおって作業を進めているとのことで、大方順調と報告があるが、遺物のほとんどが現地にあり、持ち出し不能の状態なので、資料整理・計測・データベース化等、現地での基礎作業に人員を投入する必要があると思われる。データベースのベース化に当たっての基本設計等の中間報告が欲しい。全体にかなりの分量になると報告されているが、全体を示す必要がある。</p> <p>2)についてはカハマルカ盆地の遺跡分布調査・ヘケテペケ河のラス・ワカス神殿・北部海岸のリモンカル口神殿の遺跡発掘と関連遺跡の発掘も順調に進み、報告書も出ているが資料的に膨大になることが懸念される。発掘報告書の価値は高い。また気候学的、遺骨からの栄養学的分析等理工学者との連携も進めて、多角的な分析が可能になっている。パコパンパ遺跡のように発掘の遅れているところは急ぐ必要がある。全体の計画達成は可能であろう。</p> <p>3)についてはこれら資料の集積によって最終年度に報告がなされると期待できるが、すでに2年間において国際学会での発表がなされている。スペイン語文献が主であるが、日本国内への波及性・普及性を考えると、日本語での報告書が必要と思われる。</p>				